

MA

CF礼拝説教要旨

2021年11月28日

「待降節」

「救い主の預言と実現」

イザヤ書9章5節

旧約聖書による「預言」とは将来何が起こるかという「予言」という感覚よりも

神様から言葉を託され、預けられたという「預言」という言葉が使われています。

神様から託された言葉、預けられた言葉なので、いつかかならずそれらは実現するという約束の言葉が多いのです。

その中で救い主がお生まれになるという約束も多くありますが、代表的なものをいくつか見ていきましょう。

1) 原福音：悪魔に対する勝利者としてやってくる救い主

神様が天地をお造りになり、最初の方が罪を犯した時、神様はその後何をするかを約束なさいました。

蛇に対する怒りと懲らしめの言葉が書かれています。

創世記3章14～15節

「3:14 主なる神は、蛇に向かって言われた。

「このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

3:15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。」

メル・ギブソンが作った映画「パッション」の冒頭、イエス様がゲッセマネの園での祈りから映画が始まるのですが、そこに蛇が現れ、イエス様がその蛇の頭を踏みつけて

砕いてしまうという場面が出てきます。それはとても象徴的な描かれ方ですが、この創世記の言葉を意図して制作されています。

2) 「インマヌエル」

イザヤ書には

7章14節に

「それゆえ、わたしの主が御自らあなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。

という言葉があり、それはマタイによる福音書1章にその言葉の成就として描かれています。

マタイによる福音書1章21～23節

1:21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

1:22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

1:23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

イエス様が来てくださったという出来事は「神がわたしたちと共におられる」ということの実現なのだと言われています。

3) 4つのお名前

イザヤ書にはさらに救い主が4つのお名前を持っているお方、その名前通りのお方で

あることを預言している言葉があります。イザヤ書9章5節

9:5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱え

られる。

*

新改訳聖書では9章6節になっていますが

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」となっています。

この救い主が赤ちゃんとして生まれるのだと預言されているのです。

そして、イエス・キリストはまさに、この4つの名前を保持するのにふさわしい存在でした。

5) 「ベツレヘムで」

ミカ書には救い主がベツレヘムでお生まれになることが預言されています。

ミカ書5章1節

5:1 エフラタのベツレヘムよお前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。

ベツレヘムはダビデの町と呼ばれ、パンの町とも言われている小さな町ですが、救い主はそこに生まれると記録されています。ですから、東の国の博士がやってきてヘロデ王に

新しい王はどこにいますかと尋ね、困惑したヘロデ王が学者たちを集めて尋ねると彼らは「ベツレヘムです」と答えることができたのです。

これらのことから何を考えることができるのでしょうか。

それはイエス・キリストの誕生は偶然ではなく、神様の計画によるものだということです。

そして、その計画は私たちに対する救いのためであり、悪魔を滅ぼすためのものでもあるということです。

そして、イエス様についての預言はその誕生ばかりではなく、その働きについてもその死についても語られています。

参考までにあげておきます。

*ロバに乗って・謙遜な救い主

ゼカリヤ書9章9節

「9:9 娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者高ぶることなく、ろばに乗って来る雌ろばの子であるろばに乗って。」

これはイエス様がエルサレムに入城なさった時に実現するわけですが、イエス様はロバに乗ってエルサレムに入っていました。

*十字架での苦難・兵士のくじびき

詩編22篇は全篇がイエス様の十字架の出来事そのままを描写しているような詩編です。

22:2 わたしの神よ、わたしの神よなぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず呻きも言葉も聞いてくださらないのか。

22:3 わたしの神よ昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお許しにならない。

・・・

22:8 わたしを見る人は皆、わたしを嘲笑い唇を突き出し、頭を振る。

22:9 「主に頼んで救ってもらおうがよい。主が愛しておられるなら助けてくださるだろう。」

・・・

22:16 口は渴いて素焼きのかけらとなり舌は上顎にはり付く。あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。

22:17 犬どもがわたしを取り囲みさいなむ者が群がってわたしを囲み獅子のようにわたしの手足を砕く。

22:18 骨が数えられる程になったわたしのからだを彼らはさらしものにして眺め

22:19 わたしの着物を分け衣を取ろうとしてくじを引く。

**

これらの言葉はまさしくイエス様の十字架での出来事をそのまま描写しているような預言の言葉です。

そして最後に紹介するのは

* 苦難のしもべ

53:3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠しわたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

53:4 彼が担ったのはわたしたちの病彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのにわたしたちは思っていた神の手にかかり、打たれたから彼は苦しんでいるのだ、と。

53:5 彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり彼が打ち砕かれたのはわたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによってわたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

53:6 わたしたちは羊の群れ道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて主は彼に負わせられた。

イエス様の誕生もその働きもまた、その死さえも旧約聖書に約束されている預言の成就として理解することができます。

つまり、旧約聖書に教えられている救い主はまさに「イエス」という方なのだということになります。

そして、そのイエス・キリストは「インマヌエル」であり「ベツレヘムに生まれ」「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」として私たちを救い、助け、慰め、支えることができる

お方なのです。

そんな素晴らしい救い主が来てくださるのだと聖書は預言し、実現しました。

あとは、私たちがそのお方を信頼するかどうか、ということ。

でも、私たちが信頼しても、しなくても、イエス様ご自身は神からの約束としての「救い主」なのです。

祝福がありますように！

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/2zdNlrwXtBs>

* ZoomによるMACF at Home

12月11日・24日 夜8時から

参加ご希望の方は

Pastor.kaz@gmail.com

までご一報ください。招待状をお送りします。

* クリスマスコンサートのお知らせは

<https://ameblo.jp/macf-news/image-12712488530-15037673050.html>

MACFへの献金：クリスマス献金などはこちらによろしくお願いします。

金融機関 三菱UFJ銀行 京橋支店

口座番号 普通 2833066

口座名義 ミッション・エイド・クリスチャン・フェローシップ 関根一夫